

令和6年度第3回伊勢原市子ども・子育て会議 議事録概要

- 1 日 時 令和6年9月25日（水） 午前10時00分から正午まで
 - 2 場 所 伊勢原市民文化会館 1階 練習室2
 - 3 出席者 佐伯会長、照屋委員、諏訪委員、小山委員、井田委員、安武委員、錦織委員、守屋委員、小木委員、大田（真）委員、事務局（子ども部長 山田、子ども家庭相談課参事兼課長 平井、子ども育成課長 佐藤、子育て支援課長 杉山、青少年課長 増田、松本、柿澤、中原）
 - 4 欠席者 萩原副会長、大田（正）委員、古住委員、土屋委員、及川委員
 - 5 傍聴人 なし
 - 6 議事概要
 - 1 開会（午前10時00分）
 - 2 議題
 - (1) (仮称)伊勢原市こども計画 個別事業について
○伊勢原市総合計画の策定経過について、資料6により説明。【第2回会議の質問に対する説明】
(事務局)
 - ・ こども計画の上位計画である総合計画の策定期限について、昭和46年に市制施行後、昭和47年から6次にわたり策定していることを説明した。
○(仮称)伊勢原市こども計画における個別事業について資料1～4により説明。
(事務局)
 - ・ 164個の個別事業が、大きく分けて4つの施策の方向ごと（小さく分けて17個の施策ごと）に分かれて構成されていることを提示した。
 - ・ 第2期伊勢原市子ども・子育て支援事業計画と比較し、(仮称)伊勢原市こども計画では、新規事業が40個あることを提示し、それぞれの内容について担当課から説明した。
- 【質疑応答】
- ＜地域学校協働活動推進事業＞
(委員)
 - ・ 教育委員会が行っているコミュニティ・スクールと似ているようだが、取組の一体化についてどう考えているか
(事務局)
 - ・ 類似した目的で行われている事業については、包括的にやっていける体制ができれば、より効果的に運用できると考える。少々時間はかかるが、子どもに関わる窓口や、体制の一本化を進めていきたいと考えている。
(委員)
 - ・ 子ども部は新庁舎ができるので、ぜひそこで包括的にやっていただきたい。
- ＜こども家庭センター設置事業＞
(委員)
 - ・ 合同ケース会議とはどのような方々が集まる予定か。

(事務局)

- ・ 庁内の関係機関をメンバーとして想定していて、教育委員会や保健福祉部、子ども部の担当者を交えた会議を月2回実施したいと考えている。

<こどもなんでも相談事業>

(委員)

- ・ 相談するこどもの年齢はどのような想定をしているか。

(事務局)

- ・ 相談がきたら、全て受け入れたいと考えている。こどもが市役所に来るのは難しいと思われるので、LINEなどの相談しやすい環境設定は必要だと考えている。

(委員)

- ・ 周知徹底の仕方はどのように考えているか。

(事務局)

- ・ 学校で何か配布するとか、タブレットで情報共有していただくといった、教育委員会の協力が必要であるため、協力を仰ぎたいと考えている。

(委員)

- ・ 相談員の人数・ブースは一度にどれくらい相談できる想定をしているか。

(事務局)

- ・ 今後検討していくが、いつでも受け付けられるように相談員は配置したい。

(委員)

- ・ 相談の時間帯はどれくらいを想定しているか。

(事務局)

- ・ 平日日中だけだと限られた相談しか対応できないため、不安になったときにいつでも相談できるように、LINE相談などを業務委託して24時間体制にするなど、方法については研究していきたい。

(委員)

- ・ こどもたちが一番相談しやすい時間帯は5時以降である。ぜひ検討してほしい。

<子ども・若者の犯罪・被害抑止事業>

(委員)

- ・ 街頭キャンペーンで資料を配付しても、なかなか手に取ってくれる人はいない。学校教育とリンクしなければならないと思うが既に実施しているか。

(事務局)

- ・ 小・中・高の先生方には、薬物乱用防止やSNSの適切な使い方、喫煙防止といったチラシなどを、夏休み前に全校児童生徒に配布していただいている。こどもから親に渡って、家庭でも協力していただきたいと考えている。

(委員)

- ・ 実際に体験した人の話を直接聞くことが一番のキャンペーンになると思うので、そのような機会を設けることを検討していただきたい。

<JR通勤定期乗車券の購入割引>

(委員)

- ・ 申請があった際に証明書を交付するという事業なのか。市が3割助成するというものではないのか。

(事務局)

- ・ 児童扶養手当を受給されている世帯の方について、申請があった場合は市が資格証明書を交付する。その証明書をＪＲのみどりの窓口にお持ちいただくと、乗車券代金の割引が適用されるというものである。

(委員)

- ・ 伊勢原市は小田急線沿線なので、小田急の方がよいと考える。

<新規事業全体>

(委員)

- ・ 周知の方法としてホームページ、ＬＩＮＥとしているが、今のこどもはどちらも恐らく見ない。ＬＩＮＥよりもインスタグラムでメッセージのやりとりをしている子の方が多い時代なので、市の認識をブラッシュアップしていただきたい。

(事務局)

- ・ 常に情報を仕入れながら、若い世代の方たちに届くような効果的な媒体を選択できるようにしていきたい。

(委員)

- ・ 説明の中で、「第２期計画期間中も実施していたが、未計上だったため、今回計上する」という事業がいくつかあったが、なぜ第２期計画に計上できなかったのか。

(事務局)

- ・ 第２期計画はあくまで「子ども・子育て支援事業計画」として国の指針に基づく事業を掲載していた。今回のこども計画は、貧困対策やこども・若者に関する包括的な計画であり、関連する事業が増えたため、今回から計上する事業が増えたということである。

(委員)

※各委員からの全体を通した感想等

- ・ この相談は市役所のどこにしたらいい、ということが皆に行き渡るようなシステムがあるといい。ホームページにアクセスしたときもそれがすぐにわかるような見せ方を期待する。
- ・ 療育機関などの支援が必要なこどもが年々増えている。診断名はつかないけれども困っている保護者もいる。そういった保護者が相談できる場所があるといい。また、外国籍の方も増えているので、外国籍の方にもサービスがわかりやすく伝わるとよい。
- ・ 必要としている人に情報をきちんと伝えるのは難しいと感じる。掲示や口頭で伝えてもなかなか全ての人に行き渡らない。本当に必要としている人に届くような方法について、これからも検討してほしい。
- ・ 個人情報の問題があり、情報提供に難しさを感じる。興味のある保護者は市の情報をいろいろ見ているので、そこから周りに広げられるとよい。
- ・ 出会いがないとか、接点がないという方は多いと思うが、「婚活」と言われると抵抗があると思うので、共通の趣味などについてのイベントで人を集めるのがよいのではないかな。
- ・ 本当に欲しいところに届いているのか疑問がある。例えば、こども食堂への支援は月に一度だけでよいのか。必要とされる支援がより受けられるようにしていただきたい。
- ・ 「こども食堂」という名前も、こどもたちにとっては恥ずかしくて行けない

という意見がある。もっと自然に行けるような場所になるとよい。

- ・（学校の立場で）例えば薬物乱用防止について、専門講師の話を聞く機会をセッティングしようとしても講師を探すのが難しい。簡単にセッティングできる環境があるとありがたい。

外国籍の生徒が進学に当たって様々な手続きをしようにも、どこに問い合わせたらよいかわからない。本人たちだけでは難しいので、教員が一緒に探しているという現状がある。

高校生はインスタグラムからホームページに飛ぶのが一番わかりやすい。いきなりホームページを見る確率はあまり高くない。

ホームページに関しても、専門家を入れてもっとわかりやすいものにするのがよいと考える。

- ・（保育園の立場で）保護者から相談を受けても、今は市役所のどこを案内すべきかわからない。こども・若者に関連する施設には、この相談は市役所のどの部署に案内するというマニュアルがあるとよいのではないか。

【議事の議決について】

承認された

（２）こどもの意見聴取について

○こどもの意見聴取について、資料５により説明。

（事務局）

- ・ 各世代に対して実施した「こどもの意見聴取」について、実施方法や質問内容（トークテーマ）を含めて、どのような意見が出たのかをピックアップして提示した。

【質疑応答】

（委員）

- ・ 小学生からの意見が少なく感じた。小学校は６年間あるので、いろいろなことを聞いた方がよいのではないかという印象を受けた。
- ・ これからさらに意見聴取を行うことを考えているのか。

（事務局）

- ・ 今年度は考えていないが、来年度以降については、実施方法や調整方法について、今後の課題として検討して、実施していきたいと考えている。

（委員）

- ・ 子ども科学感や図書館に来ている親子連れに直接声をかけるなど、工夫できると思う。

【議事の議決について】

承認された

-3 その他

- ・ 次回の会議は、１０月２３日（水）に伊勢原市役所３階全員協議会室で開催することを報告した。

※後日、会場が伊勢原市民文化会館１階練習室２に変更となった。

-4 閉会（正午）